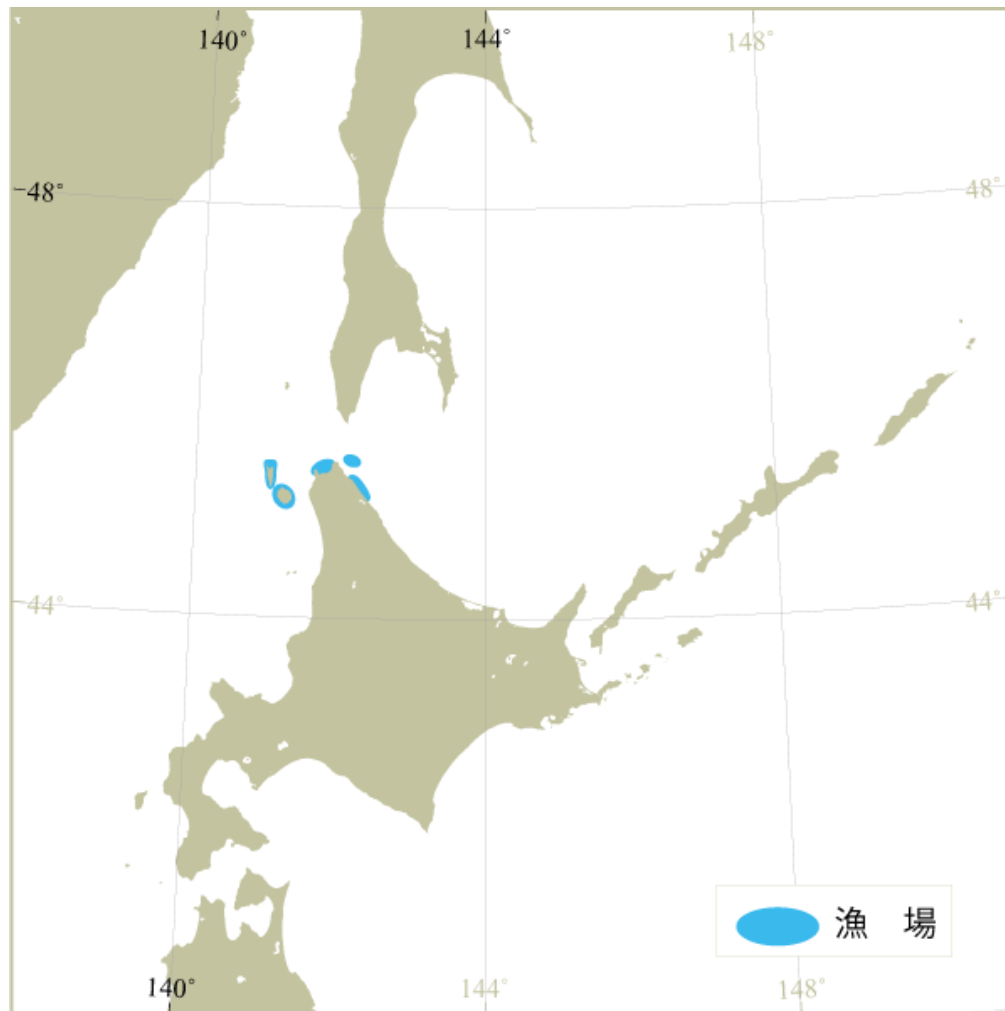




イカナゴ類 宗谷海峡 令和5年度資源評価結果

生物学的特性

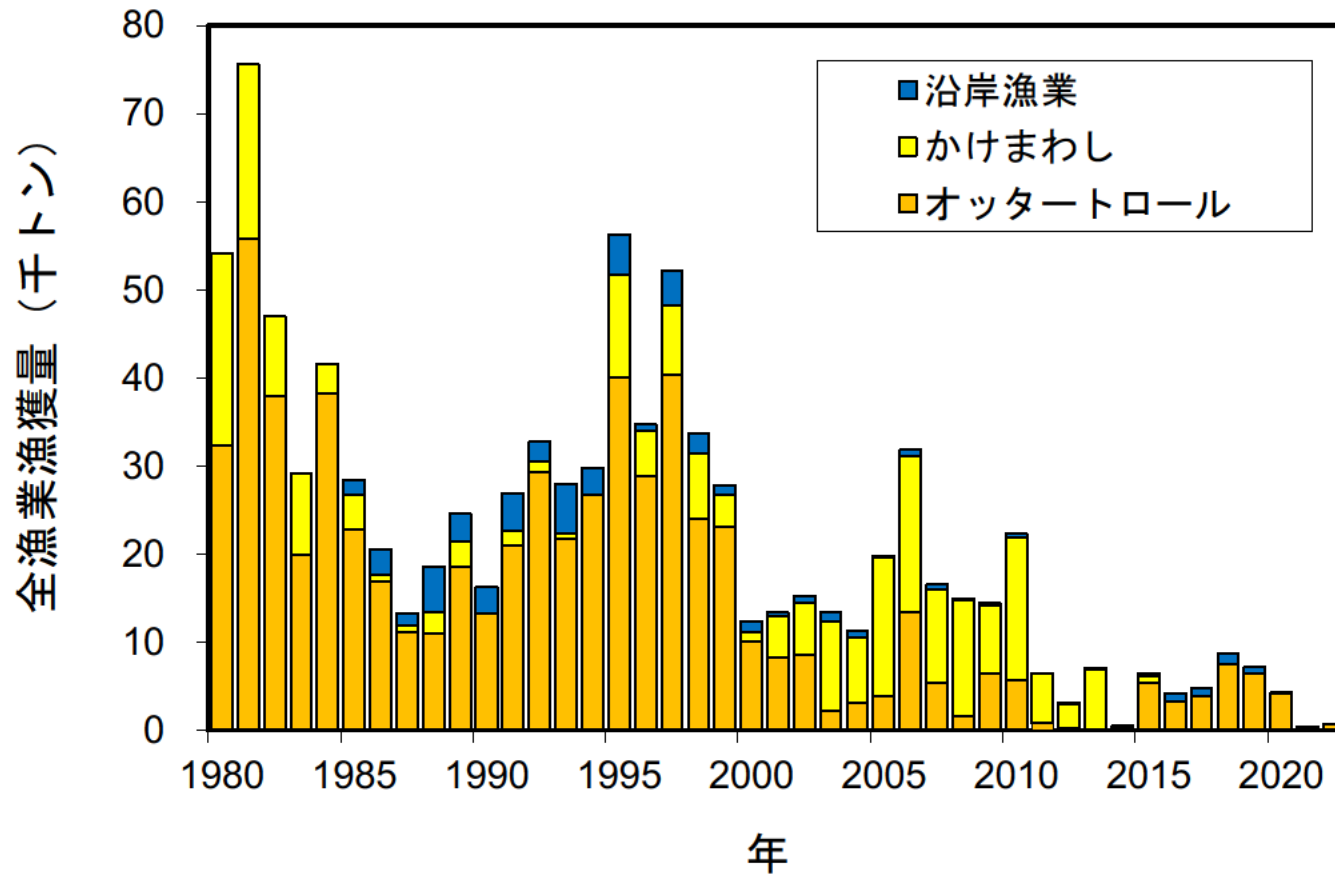


生物学的特性

- 寿命：7歳以上
- 成熟開始年齢：2～3歳
- 産卵期・産卵場：イカナゴは3～5月、稚内、枝幸、利尻島・礼文島周辺沿岸、キタイカナゴは11～12月、サハリン周辺沿岸、オオイカナゴは不明
- 食性：未成魚はカイアシ類などの浮遊性甲殻類、珪藻類、成魚はカイアシ類、端脚類、オキアミ類、十脚類、ヤムシ類、魚類
- 捕食者：魚類、トド

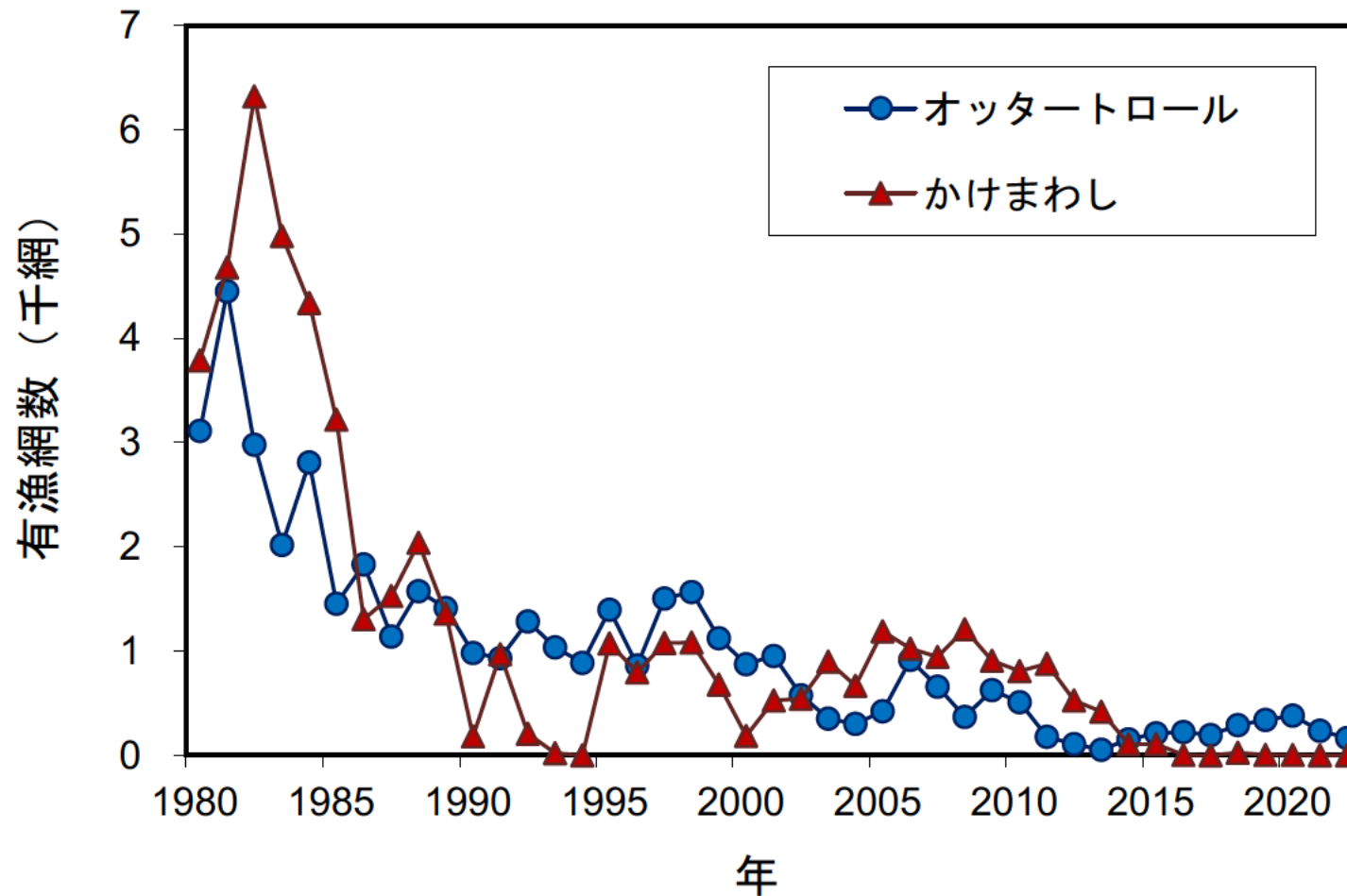
- 日本水域の漁場は、宗谷海峡周辺の分布域の南限

漁獲の動向①



- 主漁法は沖合底びき網漁業（沖底：かけまわしとオッタートロール）
- 漁獲量（全漁業種合計）は、2014年には443トンに減少した。その後増加したが、再び減少して2022年は681トン
- このうち、沖底の漁獲量は、2022年は657トン

漁獲の動向②



- 沖底の漁獲努力量（有漁網数）は、1980年代以降減少傾向
- 2022年の努力量：オッタートロール166網、かけまわし0網

※有漁網数：イカナゴ類の漁獲があった曳網回数

資源評価の流れ

沖底漁獲成績報告書・
漁獲量、努力量



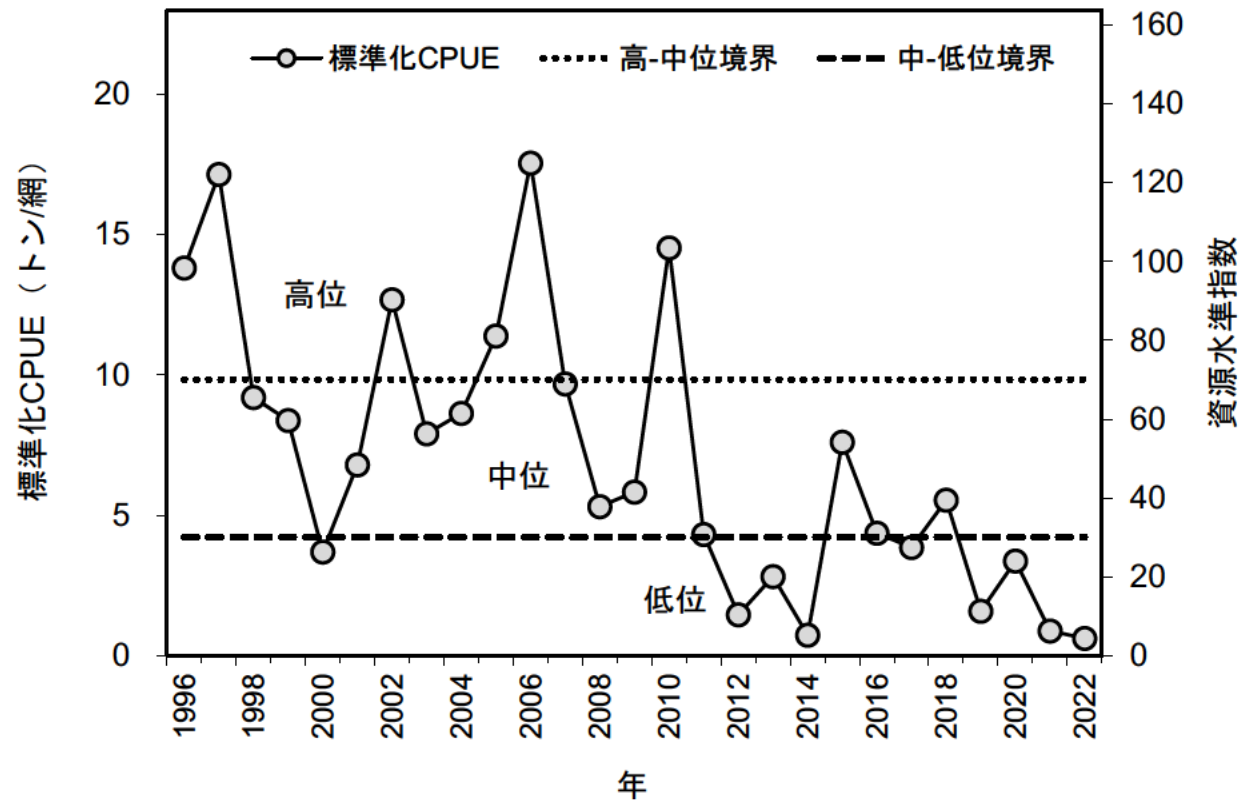
2022年までの資源量指標値・
標準化CPUE



資源水準・動向判断

※標準化CPUE：操業月や漁法による偏りを取り除いた、1網当たりの漁獲量

資源の動向



※水準区分 低位／中位：資源水準指数30、中位／高位：資源水準指数70
(1996～2022年の標準化CPUEの平均値を50とし、各年の相対値を資源水準指数とした)

- 沖底の標準化CPUEの推移から資源水準と動向を判断
- 資源水準：2022年の資源水準指数は4であり「低位」
- 資源動向：直近5年間（2018～2022年）の標準化CPUEの推移から「減少」

資源評価のまとめ

- イカナゴ類宗谷海峡の資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 沖底の標準化CPUEに基づいて資源状態を判断
- 資源状態が良くなっているとは判断できないため、引き続き今後の加入状況に注視しつつ、これまでの資源回復計画での取り組み（操業期間の短縮、休漁日の設定）を継続する必要がある